

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 キッズさくら		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 9日		～ 令和 8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 9日		～ 令和 8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和 8年 2月 9日		～ 令和 8年 3月 10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同法人内の保育園からの利用が多く、園の保育士との日常的な情報共有が円滑に行える体制がある。園での様子や発達状況を継続的に把握し、支援内容に即時に反映できるため、子ども一人ひとりに一貫性のあるきめ細かな支援を提供できている。	子どもの「できたこと」「難しかったこと」を具体的に言語化して共有。 個人情報の取り扱いに配慮した記録・共有体制。	保育園や関係機関の職員との定期的なケース会議の実施。 合同研修による支援スキル向上。 発達評価やアセスメント結果の共同活用。 ICTを活用した共有フォーマットの整備。 連携内容を個別支援計画の評価・改善に反映。
2	児童発達支援と同一職員が訪問支援を担当しており、事業所での様子や支援経過を踏まえた一貫性のある支援を提供している。子どもの特性理解が深いため、訪問先の環境に応じた具体的に実行可能性の高い支援体制を構築している。	事前に子供の最新状況(できたこと・困り感)を整理して訪問に臨む。 専門用語を避けた分かり易い説明と合意形成。 保護者へのフィードバックを含めた三者共有。	訪問前後のケース検討を定例化し、支援の質を継続的に向上。 職員の専門性向上(発達理解、環境調整)。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援と職員体制が共通のため、訪問は事業所の療育時間外に限定されやすく、十分な観察機会の確保が難しい状況。 また、訪問先の行事等と日程が重なることが多く、支援計画に基づいた計画的な観察・評価が行いにくい点が課題。	児童発達支援との兼務により訪問可能な時間が限定される人為配置。 訪問先(保育園)の行事・工程を優先せざるを得ない日程調整の難しさ。	訪問支援専任(または準専任)担当の配置検討。 短時間訪問でも評価に資する観察ポイントを明確化。 評価結果を児童発達支援側の支援内容に速やかに反映。